軽トラで
元気になる街
～まちが再生する可動式商店街～

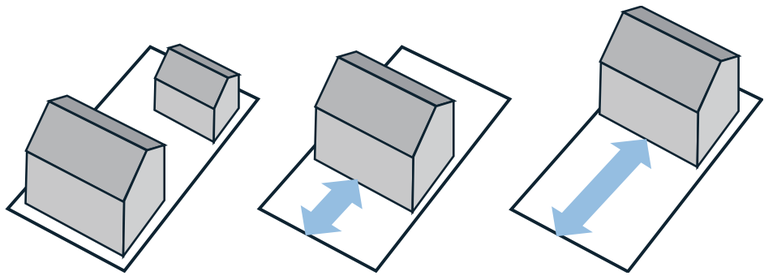
全国各地で 100 ～ 200 の市（愛知大学戸田研究室調べ）が開催されている軽トラ市。
マチと農山漁村の産地をダイレクトに結ぶ「可動商店街」として人気が高まっています。
私たちは、この「可動商店街」と連動する商・住の空間提案とまちづくりで、地域活性化を提案します。

基本コンセプト
1　空間の Design　可動的な沿道利用ができる街づくり
2　時間の Design　軽トラ市の非日常を、日常的な利用形態に
3　循環の Design　軽トラ＋αで、都市・農村活性化の循環を促す街づくり

1　空間の Design

建築年代（①戦前 /②昭和 /③現代）で異なる沿道空間（用途や壁面ライン）を可動的な利用で､｢にぎわい｣｢交流空間｣として活性化。

①戦前（町屋）　②昭和（商店建築）　③現代（住宅化）

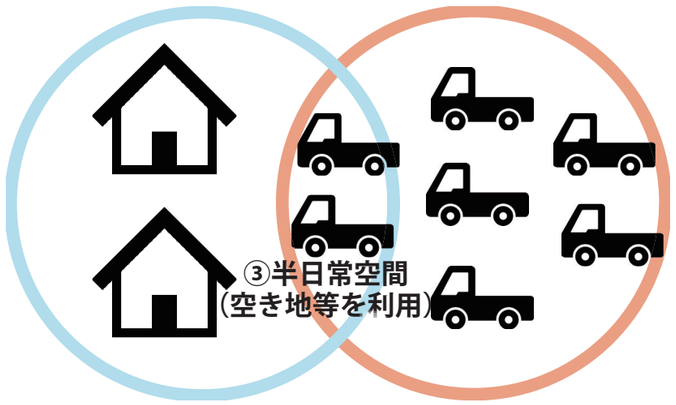


「①町屋形態」から「前面駐車場を備えた②昭和・商店建築」となり、「③専用住宅化に伴うカーポート、庭を備えた形態」に移行することで、沿道空間の壁面ラインがバラバラに。

提案 1-1　壁面ラインをあわせて町並みを形成
提案 1-2　建築形態にあった可動的な沿道交流空間を形成

2　時間の Design

月１回の軽トラ市の開催頻度を高めるために、空き地、駐車場を、「ミニ軽トラ広場」として日常的な利用形態として活性化。

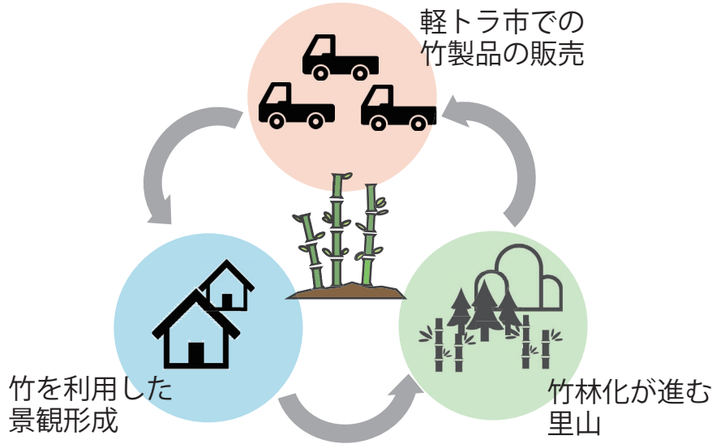


空き地、駐車場化が進むなかで、週１開催、期間開催などが可能な軽トラ利用の利便性（電源、水回り等）が確保されていない。

提案2-1　週１のペースで開催できる｢ミニ軽トラ市｣を提案
提案2-2　日常的に利用できる軽トラ（図書館軽トラ等）を提案

3　循環の Design

都市と農山村を結ぶ軽トラの周辺デザインに「竹」のデザインをプラスαすることで、新たな商品分野の提案と空間の個性づくりを進める。



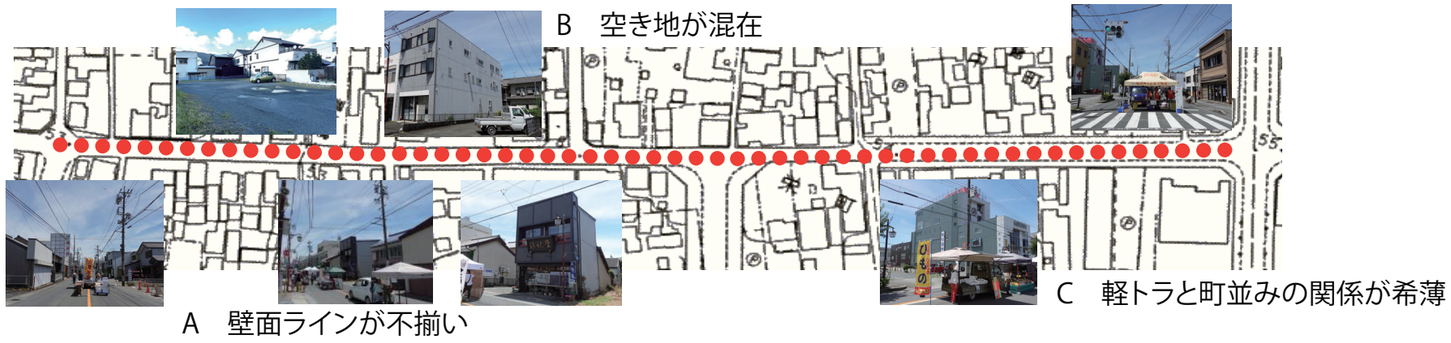
竹が繁茂し、里山への侵入拡大が地域課題になっている。竹のリサイクルを軽トラ市と連携して進めることが求められている。

提案3-1　軽トラ市での竹を利用した製品･サービスの提供
提案3-2　竹を利用した修景デザインの提案

軽トラ市の開催地から見る町並み等の課題

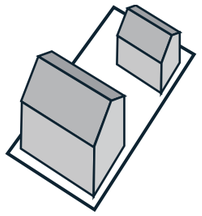
A　新旧･住商混在等により壁面ラインが不揃いな町並み
B　人口減少で空き地化が進む沿道空間
C　軽トラと町並みの景観的な調和がない

調査対象地域：愛知県新城市中央商店街



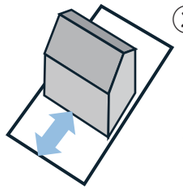
1　空間の Design

〇提案 1-1　建築年代（①戦前 /②昭和 /③現代）で異なる壁面ラインをあわせて町並みを形成
〇提案 1-2　建築形態にあった可動的な沿道交流空間を形成



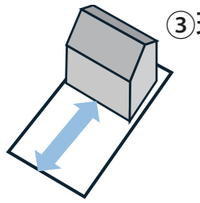
①戦前（町屋）の沿道空間との関係

戦前の町屋は、沿道に面する〝みせ〟空間が非商業的な用途になり、シャッター、格子等で、街に閉鎖的な空間になっている。



②昭和（商店建築）の沿道空間との関係

昭和に建替えられた店舗は、駐車場スペースが店舗前面に配置され、軽トラ市での有効活用が課題に。



③現代（住宅化された建築）の沿道空間との関係

住宅として建替えられた敷地は、駐車場や庭が配置され、奥まった空間になっており、カーポートの多目的利用に可能性がある。

沿道〝みせ〟空間の可動性の備えたリノーベーション

店舗型ワゴンのある町屋

閉鎖的な土間を、軽トラ開催時に有効活用できるようファサードをガラス等で開放的に。

土間から屋外へ移動できる「店舗型ワゴン」を建物と一体的にデザイン 。

土間をギャラリー空間にリノベ

土間は、軽トラ市の際はギャラリー空間等として活用。

通常時は作業室、リビング空間に。

軽トラが店舗空間に統合されたレイアウト配置

店舗前面空間を軽トラと一体的に設計

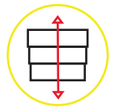
商店前面空間をパーゴラや、雁木空間等で演出し、軽トラが店舗やサイン等になるように配置を工夫。

軽トラの荷台と商品台の高さを合わせる

軽トラの荷台高さと、仮設店舗の高さをあわせて、広いレイアウトで商品展示ができるように連結空間を設置。

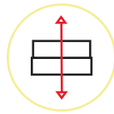
アコーディオンのように伸縮して形態が変わるカーポート

伸ばして利用している形態



日差しや雨を遮ることが可能。天気に左右されない形態。

たたんで利用している形態



柔らかな日差しを入れて開放的な空間形成も可能な形態。

複合商業空間は、立体的にも可動性を与えて、商店街に、回遊空間や滞留空間を提供する

古い小規模SCの建て替え案

軽トラ市に出店する若いオーナーが実験的店舗を構えられるようコストの安いコンテナ建築、リノベーションで建替えを行う。

【１階】　壁の無い開放的な空間

フリーマーケットやワークショップを行うイベントスペースとして利用できるだけでなく駐車場や軽トラ市の会場として活用できる空間にする。

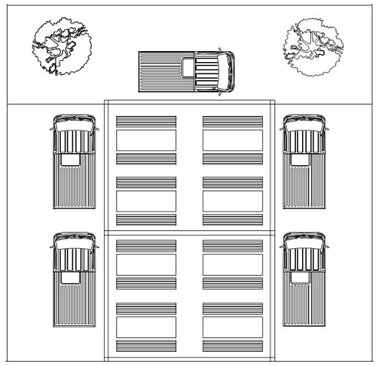
【２階】　店舗と一体的に休憩所・飲食スペースを配置

休憩所と橋を中心に置くことでここを訪れた人がコミュニケーションの取れる溜まり場をつくる。屋上からは街を見渡すことができる。
休憩所のコンテナは骨組みで骨組みの間はガラス張りになっていて部分的に竹のルーバーを設け、街を見渡すことができるだけでなく、日を除けられる場所もつくる。

2　時間の Design

〇提案 2-1　週１のペースで開催できる「ミニ軽トラ市」を提案
〇提案 2-2　日常的に利用できる軽トラ（居酒屋、図書館軽トラ等）を提案

週１・期間利用など「ミニ軽トラ市」が開催できる空間整備



普段は、駐車場等で利用されている空間が、週１、期間限定で、軽トラによる店舗になるように、駐車レイアウトを設定。

電気設備、水道設備も準備し、出店しやすい環境を用意。

軽量で、組立・解体が簡単な竹フレームで、什器、照明ポール等を制作。

普段は駐車場で利用されている空間が屋台村に転換

日常的に利用できる軽トラ（居酒屋、図書館軽トラ等）を提案

てくてく図書館

人の導線に本棚を配置することで、歩いている際に目にとまった本が読みたくなるような移動図書館を考案。本棚は竹のしなやかさを活用したアーチの連続で人々を柔らかな雰囲気で包み込む。
また、本棚を軽量な竹で作ることで自由自在に配置を変えることも可能。

今夜開店！〝軽トラ・スナック〟

キッチンカーを招いて飲み屋街を開催。仕事帰りのサラリーマンや地元の住民が交流の場（サードプレイス）として提供できるよう考案。いつもの軽トラ市の時間帯とは異なる場を提供することで新たな雰囲気を味わうことが可能。終了後も撤去が簡単なため開催の調整が行いやすい。

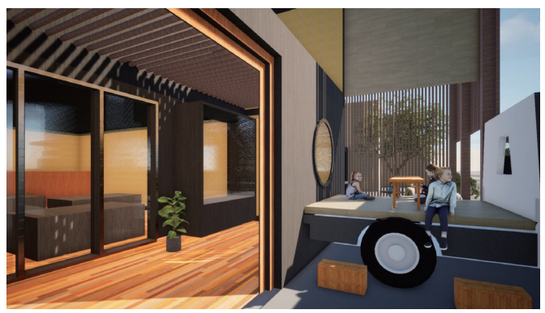
3　循環の Design

〇提案3-1　軽トラ市での竹を利用した製品・サービスの提供
〇提案3-2　竹を利用した修景デザインの提案

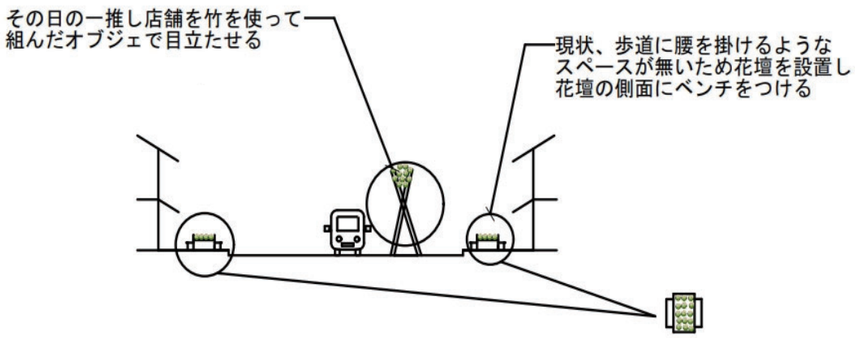
どこでも流しそうめん

竹といを利用した流しそうめん会場全体を、竹製テント、竹製ベンチで演出

竹活用の関心が高まるよう地域で生産された様々な炭製品（竹炭、竹の紙、竹玩具等）の販売も行う。



建物前面ルーバー・ファサードやパーゴラ（日よけ）等にも積極的に竹（または間伐材）を活用して、地域内の竹需要の拡大を図る。



軽トラ市の日にオススメ店を目立たせるために竹を利用したオブジェを配置。
竹でデザインされたベンチを歩道空間に配置。
（現状のコンクリート製花壇と組み合わせたデザイン）。

【制作チーム】　愛知淑徳大学　創造表現学部　建築・インテリアデザイン専攻　（３年）
高橋琉生、河村百香、榊原由依、高田涼寿、鈴木梨央、赤田啓輔、市川朋和、丹羽穂乃人